

令和2年10月23日 国公立大学附属病院医療安全セミナー

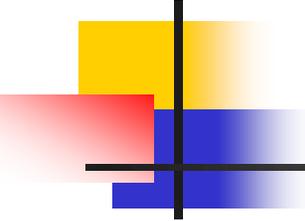


弾よく乱を制す

——新型コロナと災害医療の共通点

横浜市大附属病院長・麻酔科学教授

後藤 隆久



今日の話題

- ダイヤモンドプリンセス号対応から学んだこと
- 4月に横浜市大附属市民総合医療センターから大学附属病院に異動して学んだこと
- 国公立病院が今後、COVID-19に立ち向かう上での留意点

横浜市立大学



市民総合医療センター
(726床 DPC II群)



附属病院
(特定機能 674床)



それはダイヤモンドプリンセスから いきなり始まった



- 準備の時間がない
- 情報がない
 - 患者は何人来るのか？
 - 伝染経路は？
 - 重症化率は？
 - 治療法は？

医療資源がない

- DMATが召集されるも
 - 感染症指定病院だけでは到底足りず
 - 横浜市内・神奈川県内もすぐにパンク
 - 軽症は遠方まで搬送
 - 受け入れない病院が続出



物資がない



2020年10月11日(日)
天気 社説 凡語

京都新聞

ホーム 京都 滋賀 観光 スポーツ 社会 文化・ライフ

京都コンピュータ学院 >> オンライン説明会開催中

トップ > 地域のニュース > 「1週間に1枚」マスク不足深刻 京都の病院、他の感染症リスク懸念

市内

「1週間に1枚」マスク不足深刻 京都の病院、他の感染症リスク懸念

2020年3月23日 7:00

[Twitter](#) [Facebook](#) [B!](#)



新型コロナウイルスの感染が拡大する中、京都の病院がマスク不足への対応に追われている。感染リスクが高い病院では通常、医師や看護師らが一日に何度もマスクを交換するが、現在は支給数の制限や節約の呼び掛けをしている。京都大医学部付属病院（京都市左京区）では使用数が原則と

o-np.co.jp/articles/gallery/191462?ph=1

社会がパニック



- 新規感染者数を毎日報道
- 「感染者がどこで出たか公表しろ！」
- 医療従事者へのバッシング

たまたま一つのケース教材に出会った



HARVARD | BUSINESS | SCHOOL

9-714-J09
JANUARY 7, 2013



HIROTAKA TAKEUCHI
YUKIKO SAKAI
REBECCA AGONAFIR
PETER CHOLEWINSKI
ALLISON KEAN
EMILY KLOEBLEN

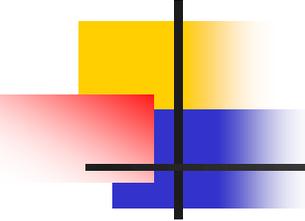
東日本大震災(C)：石巻港湾病院の対応

夕闇が迫る 2011 年 3 月 11 日、石巻港湾病院(以下「石巻病院」)のマネージングディレクターを務める間山文博は、長く寒い夜になるであろうと思った。3 回の津波で 4 階建ての病院の 1 階部分と 2 階の一部が破壊され、難を逃れた 103 人の職員と 162 人の患者および家族が 3 階と 4 階に身を寄せあっていた。津波で病院の食料や薬、設備もほとんどが海に押し流され、物資の大部分が保管されていた 1 階倉庫の鍵もなくなってしまった。患者や職員は暖房も電気もない状態で取り残され、ほんのわずかな煎餅と牛乳、ヨーグルトで、その夜から数日間を持ちこたえなければならなかった。

<https://casecenter.jp/case/CCJB-HBS-13046-01.html>

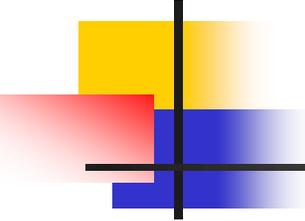
石巻港湾病院





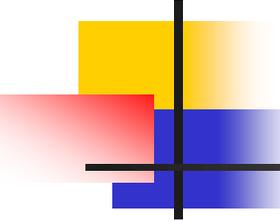
石巻港湾病院はどう対応したか？

- 地震直後、避難訓練の時と異なり、津波に備えて患者を上階に運んだ。
- 院長は医療、事務長は運営と、責任を分散。
- 現場のアイデアで次々と課題に対応
- わずかな物資を、必要度に応じて皆で共有。



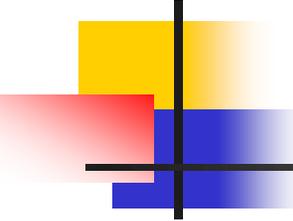
なぜそれができたのか？

- 石巻では、いずれ地震が来るという意識があり、それに備えていた。
- 病院グループでは、**理念と方針**が常に強調された。
- 各病院は**主要な診療指標を共有し、それぞれに課題を見つけ、職種を越えて話し合っ解決すること**が奨励されていた。



災害時にボトムアップが機能するには

- 情報が共有されている
- 理念や行動方針が共有されている
 - まずは職員の安全を守る。
 - 慢性期患者ばかりなので、見捨てられない。
 - 当院は慢性期病院だから、急性期には対応しない。
(役割の明確化と地域での機能分担)
- 話し合いで課題解決する文化がある。



今回の新型コロナウイルス対応では

■ 情報共有

- 救命救急教授が神奈川県本部や横浜市行政に入り込み、自ら情報をとってきてくれた。
- これを院内に余すところなく開示

■ 優先順位の明確化

- 職員を必ず守るとコミット
- 大学病院は重症患者に集中する

■ 地域で診るために

- 横浜市に指令本部設立を要請→Y-CERT

トップダウン vs. ボトムアップ

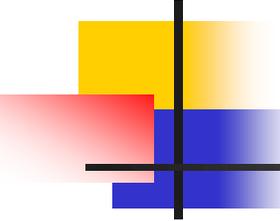
- 緊急対応の代表的組織である軍隊はトップダウン



本院はがん、センターは救急

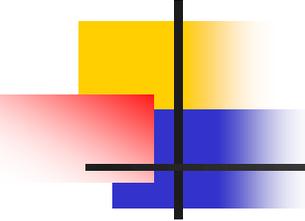
- センター病院には高度救命救急センターや総合周産期センターがあり、救急患者を多く受け入れてきた。
- 本院は予定入院が中心。
- その結果、本院はセンター病院に比べ、看護師配置が定数通りで余裕が少ない。





4月6日、横浜市医療局副局長来訪

- 「大学附属2病院に、それぞれ50床ずつ、新型コロナ専用病床を用意していただきたい！」
- 本院：一般床を最大140床閉鎖し、看護師を新型コロナ対応病床に異動、集約
- センター病院：通常診療体制で対応



社会として、医療にレジリエンスを持たせるためには

- 平時から一定の余裕を持たせるための投資が必要なのでは？
- それを行うかどうかは、社会（＝有権者、納税者）の意志決定

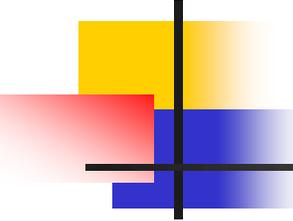
石巻市立病院



- 震災4日後に病院閉鎖
- 市からの人材や医療材料の補給を待っていた。
- 石巻港湾病院は、震災3日後には本部から物資が到着。

国公立病院が今後、新型コロナに立ち向かうために必要なのは

- 財源を考えるうえでのレジリエンス
 - 国公立病院はCOVID-19 に対応し続けなければならない。
 - しかし、その財源が国や自治体にあるのか？
 - 財源確保策を規制していないか？
 - 公務員は民間より上意下達、指揮命令系統が強固、職務内容も決まっている。
→現場に創意工夫の訓練が日頃からされているか？



まとめ

- 災害やパンデミックでは、情報共有、優先順位の明確化、地域における役割分担が重要。
- 医療資源にある程度の余裕がないと、パンデミックや災害に十分対応することは困難。その余裕を持たせるかどうかは社会の意志決定。
- 新型コロナの影響で社会経済が今後数年間落ち込むことが予想されている。そんな中で、国公立病院がパンデミックと戦っていくための財源を確保するためには、待っているだけではだめなのでは？

ご清聴ありがとうございました

